

## 第4回 杏林医学会総会

日時 昭和50年11月8日(土) 午後12:30~5:00

場所 三鷹市新川 6-20-2 杏林学園

12:30-12:50 杏林医学会評議員会, 同事務総会合同会議  
於 A会場(臨床講堂)

12:50-1:00 杏林医学会総会開会  
開会の辞 小林竜男学会長代理  
於 A会場(臨床講堂)

1:00-1:20 特別講演 Poiseuille Gold Medal 受賞に際して  
岡 小天 於 A会場(臨床講堂)

1:30-5:00 一般講演 於 A, B, C 会場

### POISEUILLE 賞の受賞に際して

岡 小 天 (杏林大生理 客員教授)

昨年12月30日より本年1月7日までイスラエルのワイズマン研究所で国際バイオレオロジー会議が開かれ出席した。この国際会議は国際バイオレオロジー学会が3年毎に主催するもので、今回は第4回目に当たる。因みにバイオレオロジーというのは一般に生物系の流動や変形を扱う総合的科学的分野で、血液・血管をはじめ、各種の分泌物・粘液・軟組織・細胞などのレオロジーを含み、医学・生物学と理工学との境界領域としてこの十数年来急速に発展した新分野である。この国際学会ではバイオレオロジーに顕著な貢献をした者に対し、国際会議の折1名に Poiseuille Gold Medal を授与することが制定されており、第1回目にはスウェーデンの R. Fahraeus 教授(生理学, 1966), 第2回目にはイギリスの G. W. Scott Blair 博士(レオロジー, 1969), 第3回目にはアメリカの A. L. Copley 教授(生理学, 1972)が受賞し、第4回目に筆者が受賞の榮に浴した。筆者の受賞対象はバイオレオロジーの理論的研究であつた。昨12月30日の受賞式では、前回の受賞者 Copley 教授が

筆者の紹介を15分程した後、筆者の胸に金メダルをかけ、続いて筆者が The Present Status of Hemorheological Theory という演題で受賞講演を45分した。これらの詳しい記事は国際雑誌 BIORHEOLOGY, Vol. 12, No. 3/4 (1975) に掲載されている。12月30日の開会式にはイスラエル大統領も出席して祝辞を述べられたが、1月1日エルサムの大統領公邸に招待された折 Congratulations! と大統領が握手されたことは昨今のよう感じがする。この会議ではバイオレオロジーの第一線の研究者による多くの勝れた研究が発表されたが、レーザー・ドップラー法による細動脈中の血流速度分布は特に注目を惹いた。Caro, Nerem らのコレステロールに対する血管壁透過性の実験的研究に刺激されて筆者は帰国後血管壁透過性の理論的研究に進み、5月9日米セミナー、8月の生体材料シンポジウム、11月の日本脈管学会で atherosclerosis の成因に関する理論的考察を発表した。